

研修受講者への意識調査の集計・分析結果のまとめ

公益社団法人日本精神保健福祉士協会

研修開催概要

◆ 研修名

課題別研修 Eメールによるソーシャルワーク～限界ある情報の中でSOSに対応する～
（「子ども家庭支援人材養成モデル研修」の位置づけ）

◆ 開催日及び参加人数

第1回 2021年10月24日（日） 参加者 57名[修了 52名]

第2回 2022年1月10日（月・祝） 参加者 53名[修了 51名]

※各回ともに50人を定員としていたが、申込多数により、60人まで定員を増やし受け入れた。

◆ 開催方法

Web ミーティングシステム「Zoom」使用でのオンライン開催

◆ 参加要件

- ・本協会構成員（必要な会費を納めていること）
- ・本事業にご興味のある精神保健福祉士、非構成員（ソーシャルワーカー）

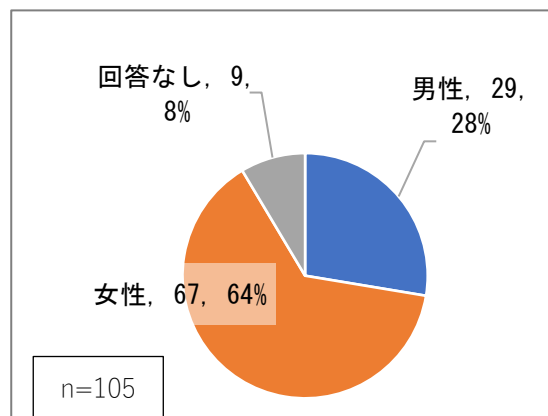
アンケート調査結果

今回の研修開催時に参加者に対して、本事業実施内容の検証及び今後の本協会事業活動の参考にすることを目的に、アンケート調査を実施した。Web フォームにより自記式アンケートで研修時に URL を知らせ、終了後3日以内に締切として回収した。研修案内時にアンケート回答への協力が必須であると周知していたこと、また、メール相談を希望する意志の確認も兼ねていたことから回収率は良く、全参加者110名のうち105名が回答、回収率は95%にのぼった。集計結果について以下のとおり報告する。

◆ 基本情報

1.性別

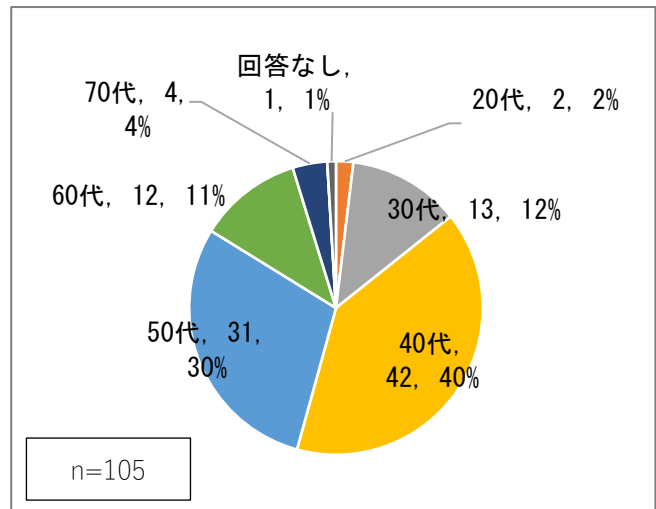
回答者の性別をみると、男性28%、女性64%、回答なし8%であった。



2.年齢

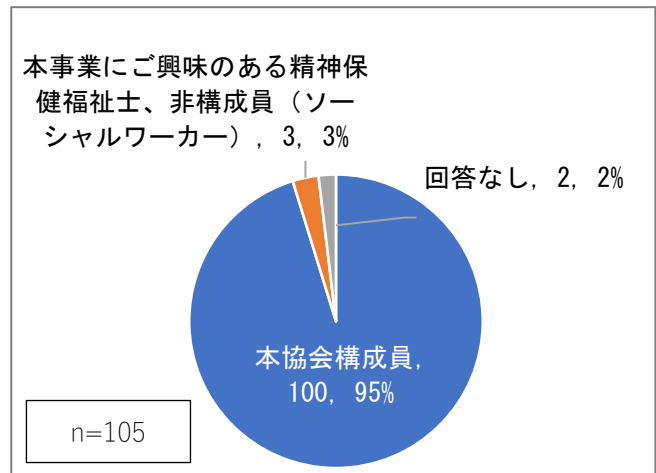
回答者の年齢層は、20代2%、30代12%、40代40%、50代30%、60代11%、70代4%、回答なし2%であった。

印象として若手よりも年齢層は上で、それぞれの年代に参加者が分散していることが理解できる。メール相談というテーマは面接技術を学んでいる若い世代よりも、ある程度相談実践をしている人達の、相談ツールを応用させたものになるという点で、年齢層が高くなるのかもしれない。そうすると、面接技術をメール相談という限界ある媒体を使う演習を行うことは、自分の面接を振り返ることにつながるという期待もあわせて読み取れる。



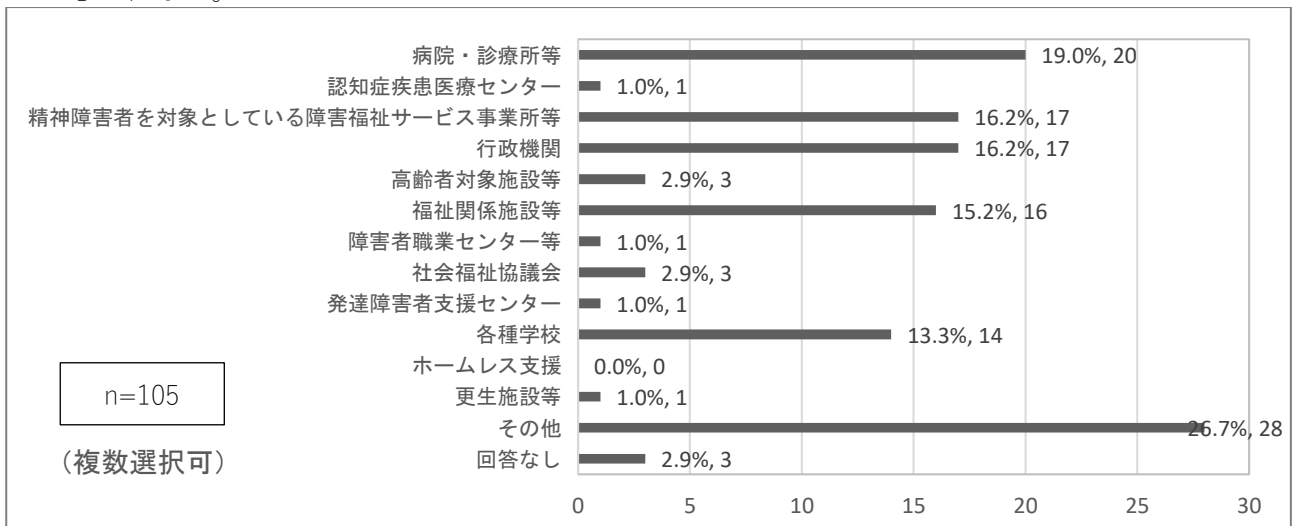
3.受講区分

回答者の受講区分は 95%が協会構成員である精神保健福祉士であった。非構成員は3%、回答なしが2%であった。



4.所属

回答者の所属機関については病院・診療所等 19%、障害サービス事業所 17%、行政機関 17%、福祉関係施設 16%、各種学校 14%、社会福祉協議会 3%、高齢者対象施設等 3%、発達障害者支援センター1%、障害者職業センター1%、認知症疾患医療センター1%、更生施設等 1%、その他 28%、回答なし 3%となっている。その他は 28%と高く、企業、地域包括支援センター、フリーランス、独立型相談機関、生活困窮者自立支援事業など、かなり多岐に渡った。従来精神保健福祉士が活躍してきた病院、障害サービス事業だけでなく、学校で活動している精神保健福祉士が多く見られた。また、この問題が領域を超えていかにすそ野の広いところで精神保健福祉士が着目しているかが理解できる。逆に言えば、子どもと家族の相談について問題はまだまだ潜在的な相談のニーズがあるのかもしれない。

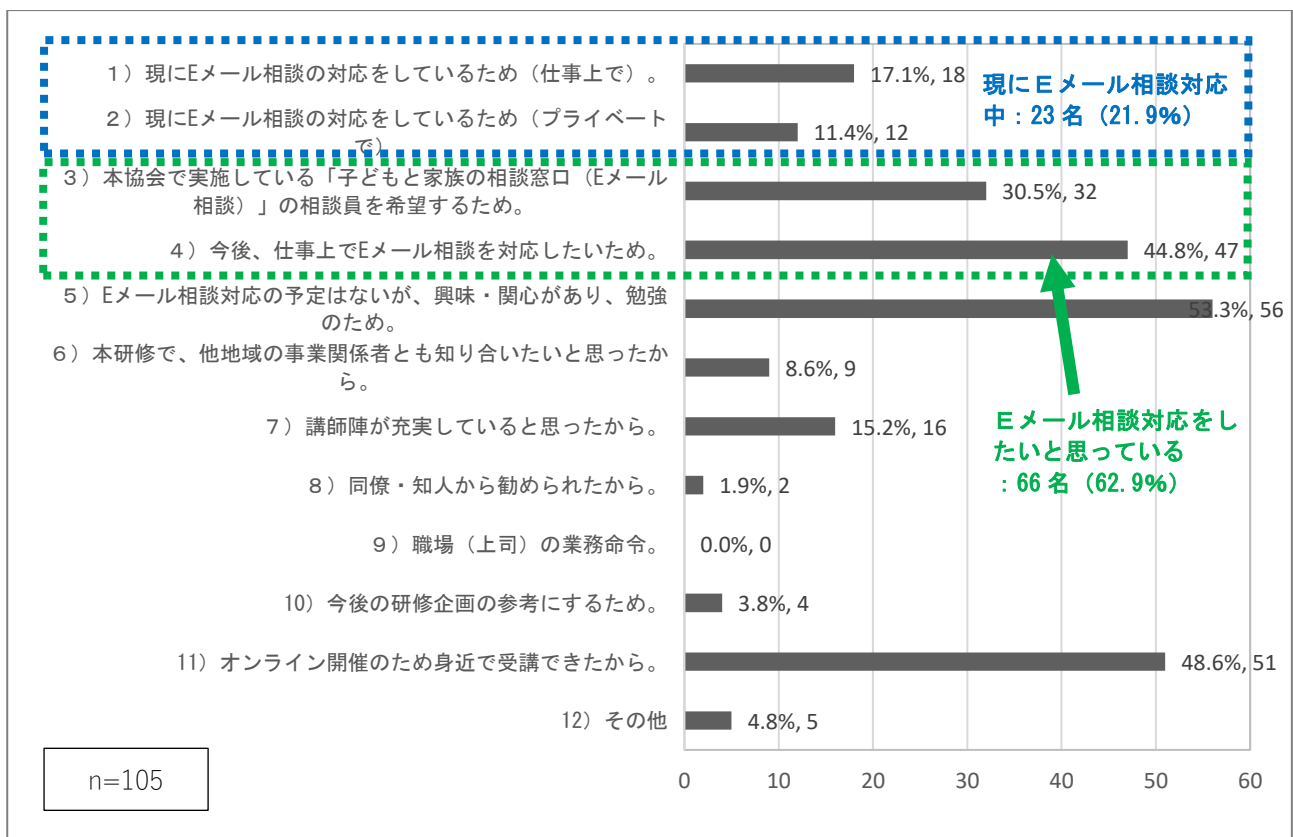


5.参加動機

本研修への参加の決め手となったものを下記の12項目で選択してもらった（複数回答可）。各項目の集計結果は以下のとおりである。

動機	人数	割合
1) 現にEメール相談の対応をしているため（仕事上で）。	8	7.6%
2) 現にEメール相談の対応をしているため（プライベートで）。	4	3.8%
3) 本協会で開催している「子どもと家族の相談窓口（Eメール相談）」の相談員を希望するため。	22	21.0%
4) 今後、仕事上でEメール相談を対応したいため。	24	22.9%
5) Eメール相談対応の予定はないが、興味・関心があり、勉強のため。	40	38.1%
6) 本研修で、他地域の事業関係者とも知り合いたいと思ったから。	4	3.8%
7) 講師陣が充実していると思ったから。	9	8.6%
8) 同僚・知人から勧められたから。	1	1.0%
9) 職場（上司）の業務命令。	0	0.0%
10) 今後の研修企画の参考にするため。	2	1.9%
11) オンライン開催のため身近で受講できたから。	30	28.6%
12) その他	1	1.0%
回答なし	1	1.0%

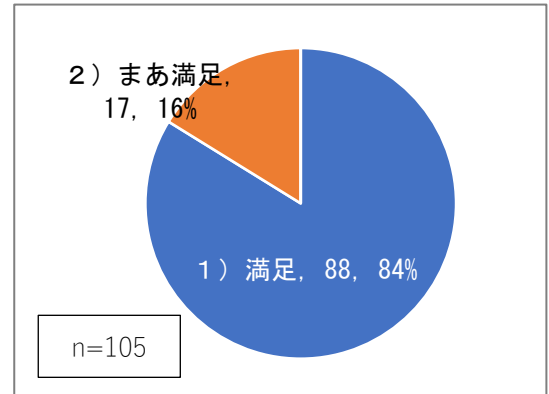
すでにEメール相談対応をしている者は23名（21.9%）、メール相談対応をしたいと思っている者は66名（62.9%）と6割以上がメール相談活動を視野に入れての受講であった。



◆ 研修の評価

6. 研修全体の満足度

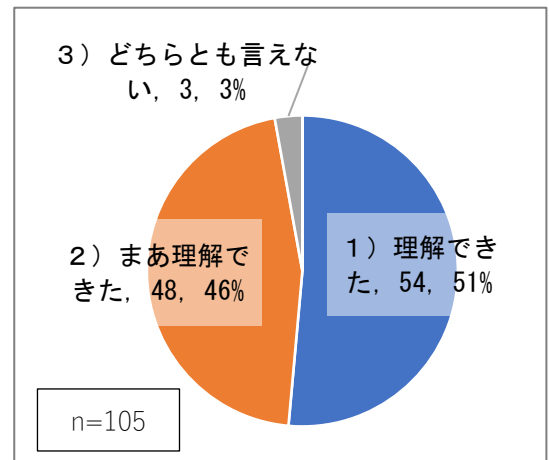
「満足」84%、「まあ満足」16%で、「やや不満」・「不満」は0人であった。満足度の高い研修を提供できたと考える。



7. 研修全体の理解度

「理解できた」51%、「まあ理解できた」46%、と97%の受講者が概ね理解を示している。「どちらともいえない」は3%、「あまり理解できなかった」・「理解できなかった」は0人であった。

講義中心ではなく、体験談、個人ワーク、グループワークとプログラムを総合的にしたことで、体験的に理解した感覚を得られたのではないかと考える。

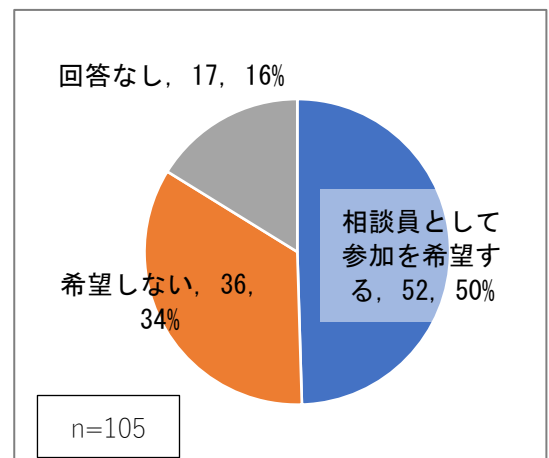


8. 自由記述

講義・パネルディスカッション・演習とそれぞれに自由記述を設けたが、多くの感想が寄せられた。ただ漠然と聞いていたのでは出てこない、理解を自分の活動の場で考えようとする者も多く見られた。

9. 「子どもと家族の相談窓口（Eメール相談）」の相談員を希望するか

相談員を希望するかという項目には、50%が希望すると回答した。



本事業における成果について

本事業の効果測定は、下記を基準としていた。

- ・定員の90%以上となる受講者数の達成
- ・受講者への意識調査による理解度の確認 受講者全体の80%以上
- ・受講者の意識調査による満足度の確認 受講者全体の80%以上
- ・受講者のうち「子どもと家族の相談窓口」の相談対応への参加 受講者全体の20%以上

すべての項目について達成したことから、今回の研修では一定の成果を挙げられたといえる。